

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です〕

自己	外部	項目	外部評価		
			令和1年自己評価	実践状況	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各フロア見えやすいところに掲示し、理念を考えながら業務を提供するようにしている。職員研修時理念を伝え、職員の周知に繋げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	バーベキューや左義長などの地域行事に参加したりグループホームの行事に地域の方に案内を出し、参加してもらったりしている。回覧板を通じて、町内の行事・草むしり・泥上げ・雪かきなどに参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の中学生の職場体験や実践者研修などの受け入れを行い地域貢献につなげている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	広報誌を年4回発行し施設内の様子を発信。運営推進会議にも町会長や副町会長に参加していただき、情報を集めサービスにつなげる。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町会長さんや包括支援センターの方以外にも町の青年団の方などに行事に参加していただきホームの状況等みていただくようになっている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修及び身体拘束委員会による会議を設け、定期的「身体拘束をしないケア」に向けて話し、ケアを実施するよう努めている。会社全体で他講師を招いて勉強会を開催している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての研修を開き、スタッフに知識を周知するとともに日頃のケアについてスタッフがお互いに注意できるような環境を作り、ご利用者様への声掛けやケアを気を付けて行っている。会社全体で他講師を招いて勉強会も開催している。		

自己	外部	項目	外部評価		
			令和1年自己評価	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内研修で学んだり、外部研修にも参加している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者様、ご利用者様の不安や疑問点は納得を得るまで検討、話し合っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2か月に1度、運営推進会議を開き意見交換の場を設け運営に反映させている。また、玄関に意見箱も設置している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝夕の各フロアでの申し送り、ユニット会議や管理者と職員個人での面談で職員の意見や提案を聞く機会があり、反映している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者と職員の個人面談の機会を作り、意見が言える環境に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年12回の施設内での研修も多くの職員が参加している。また、外部研修参加の機会も多く、理解もある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	積極的に他施設と交流することを心掛け、サービスの質の向上を目指す取り組みをしている。		

自己	外部	項目	外部評価	
			令和1年自己評価	実践状況
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様と何度も入居前に面会を行い、よくお話をし心配事・要望などと言っていただける信頼と関係の雰囲気づくりに努めている。	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の見学の際、家族様から入居前の様子や生活歴・不安なこと・要望を十分聞き取り、入居後も様子を報告し、コミュニケーションを図ると共に、支え合う信頼関係作りに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	スタッフ全員が情報を共有し、管理者がご家族と話し合い、ご本人の心理の状態や家族の心境などに配慮しサービスに努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様毎に出来る事を見つけて、調理補助や家事手伝いなどを一緒に行う事を心掛け、家族の一員として生活を共にしていけるような配慮を行っている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事、誕生会などにはできるだけ参加していただけるように声掛けを行い、面会時や毎月郵送する手紙にも情報や様子を報告し、本人と一緒に時間を過ごせる機会を作るようにしている。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族に協力を得て自宅や友人宅、親族の元を訪問するなどして自由に外出している。ご家族や友人の訪問時は、居室またはフロアにて面談に来られた方の思い出話を聞き、快く過ごしていただけるよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、状況に応じて利用者間の中に入、り会話ができるよう配慮したり、レクリエーションや行事を通してお互い関わり合える機会を持てるよう努めている。	

自己	外部	項目	外部評価		
			令和1年自己評価	実践状況	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	近所でお会いしてお声をかけたり、またご家族様からお声を掛けてくださったりよい関係づくりに努めている。		次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員がそれぞれにご利用者様に寄り添い、傾聴し、思いや意向を把握する努力をしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の情報として受け取る書面の他にも、ご本人ご家族などから生活歴、馴染みのあることをお話の中からも収集し把握することに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員ひとりひとりが利用者様の心身状態・小さな変化を見逃さないよう努め、気づいた点は必ず職員間で報告、共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様には担当職員を決め、課題やケアのあり方をケア会議で他の職員の意見も取り入れながら全員で共有し、介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一日を起床時、日中、夜間に分けて、ご本人の様子や言葉、ケアの実践、結果、気づきを見やすいよう工夫して記入し職員間で情報を把握し、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様の意向に添えるような支援を(外出支援)努めて取り組んでいる。		

自己	外部	項目	外部評価		
			令和1年自己評価	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア、相談員の訪問を受けている。町内のイベント・左義長やBBQの時に声を掛けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当施設のかかりつけ医院と連絡をととも密にとっている。本人や家族の希望を重視して状況容態にあった病院を選び受診している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回の看護師の訪問があるため何でも相談できるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した時には、家族と医師や病院関係者とよく連絡を取り、面会し、病状に応じた対応をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族、本人、医師とよく連絡を取り、重度化していく場合の対応を、利用者や家族の意向を大切にすようしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	1FにAEDを設置している。急変や事故発生時の研修を行っている。全職員が順次救命救急士の講習を受け、備えている。		
35	(13)	○緊急時等の対応 けが、転倒、窒息、意識不明、行方不明等の緊急事態に対応する体制が整備されている	行方不明等の連絡体制や捜索時利用者のファイルを作っている。緊急時の研修や、年に2度火災訓練をしている。		

自己	外部	項目	外部評価		
			令和1年自己評価	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○バックアップ機関の充実 協力医療機関や介護老人福祉施設等のバックアップ機関との間で、支援体制が確保されている	医療機関と連携し24時間体制である。		
37	(15)	○夜間及び深夜における勤務体制 夜間及び深夜における勤務体制が、緊急時に対応したものとなっている	夜間緊急事態が発生した時には施設長に報告、指示をおおぎ施設長から指示していただく。緊急連絡網もある。		
38	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練を夜間対応でも行い、地域の消防署の協力を得ている。		
39	(17)	○災害対策 災害時の利用者の安全確保のための体制が整備されている	災害時マニュアルの整理をし年2回災害を想定し訓練をしている。訓練は人手を少ない夜間想定を重視した内容としている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
40	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	定期的勉強会をし、利用者さんには「一人の人間 人生の先輩」として言葉遣いや対応を配慮している。		
41		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者さんが希望するような暮らしができるようコミュニケーションをもち自己決定ができるようにしている。		
42		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの利用者さんの希望を取り入れ生活リズムにあった暮らしができるようにする。		

自己	外部	項目	外部評価	
			令和1年自己評価	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
43		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お出かけ時に洋服を本人と一緒に本人に合った衣類を着ていただく。	
44	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	手作りの日に利用者さんと一緒に、見守りしながら調理をする。細かく刻んだり、トロミ食・ソフト食を提供する。	
45		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分制限される方には水分チェックしながら、声掛けしながら支援する。	
46		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりに声掛けしながら必要な方には介助しながら清潔を保っていただく。	
47	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ時利用者さんによって声掛けしながら排泄の自立に向け支援を行う。	
48		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヨーグルト・牛乳毎日の飲食と主治医からの内服を調整しながら排泄していただく。排泄記録をつけて、定時の誘導にこころがけている。	
49	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時本人の希望に沿って声掛けしながら入浴していただくよう心掛ける。	

自己	外部	項目	外部評価		
			令和1年自己評価	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や状況により自由に休息していただけるよう支援している。季節に応じて布団の管理もしている。		
51		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフは薬の内容を理解し、内服を間違えないよう数人のスタッフで確認し、内服している。処方が変わった場合スタッフ間で情報交換している。		
52		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとり出来ること出来ないことを把握し、家事作業の手伝いや畑・花の水やりなどを行っている。		
53	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や体調を見ながらスタッフと買い物に出かけたりドライブ・散歩などに行ったりしている。		
54		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどの利用者さんが自己管理が出来ないため、必要なものがあるときは立て替え払いで対応している。一緒に買い物へ行くこともある。		
55		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者さんの希望があればスタッフが電話をかけて話していただいている。毎年、年賀状をできる限り直筆で名前を書いていただいている。		
56	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日中、利用者さんにはホールで過ごしていただいている。ホールでは季節がわかるように壁に花の折り紙を貼ったり、快適に過ごせるよう温度管理を徹底している。		

自己	外部	項目	外部評価		
			令和1年自己評価	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
57		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにはくつろげるようにソファやTVを配置しており、気の合う利用者さん同士で過ごせるよう配慮している。また、ベランダにもベンチと椅子を配置し、自由に行き来できるよう工夫をしている。		
58	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室では馴染みのある家具や布団を持ち込み、住み慣れた環境を取り入れて居心地よく過ごしていただけよう配慮している。また、横になってTVを見たい方など、ご本人に合うよう配置を工夫している。		
59		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内の廊下・トイレ・脱衣場には手すりが設置されており、歩行が不安な方も安心して出来るだけ自立した生活が送れるよう工夫している。トイレのドアには大きな文字で「トイレ」と表示することにより不安なく過ごせるよう配慮している。		